

地方銀行に関する考察
-地方銀行の特性及び収益に影響を与える要因について-

要旨

本稿では、地方銀行は必要だという立場を取っている。実際に私はそう考えている。日本の 99%以上は中小企業であり、それを地方銀行が支えているからだ。なぜそう言えるのかと問われれば、地方銀行が多くの企業からメインバンクとして認識されているからである。地方銀行はメガバンクとは性質が異なる。地方銀行は各地域における要であり、地域密着型の銀行である。それ故、地方銀行の業績は地域経済の状態と不可分となり、地域経済の変化の影響を強く受ける。

近年、市中の低金利や、過疎化、人口減少等により、銀行の本業である貸出で収益を上げることが困難になっている。こうした背景を考慮して、地域金融機関の役割を果たしつつも、利鞘を稼ぐ方法は何か、金融仲介機能のベンチマークを用いて分析を実施した。金融仲介機能のベンチマークは、銀行の顧客本位の営業を評価するものである。分析では利鞘にプラスの影響を与えている要因は、資産規模と創業期支援への関与の度合いであることが示唆された。創業期支援は地域経済に貢献しつつ、銀行の経営安定化にも寄与するものと言えるだろう。

銀行の収益は、利鞘だけではない。そもそも、利鞘で収益を上げることが困難なのだから、他に大きな収益源があると考えられる。利鞘以外の収益を測るために、総資産利益率と有価証券報告書に記載された複数の指標を用いて分析を実施した。分析から、主に資産規模とリスク資産保有残高が正の影響を与えていると示唆された。

さらに、地方銀行の利鞘、総資産利益率に対して事業エリアの特性がどのように影響を与えているのかを検証した。事業エリアの特性が収益に影響を与えているとしたら、銀行の収益は事業エリアに依存していることになる。分析からは、大都市圏やその近郊を事業エリアとする銀行は、総資産利益率が大きい傾向にあると示唆された。

事業エリアの特性が、地方銀行の収益に影響を与えているとしたら、地方銀行は地域の発展は基より、衰退と共にあるということだ。そうであれば、地方銀行は地域創生を担う立場にあるだけでなく、他の企業と同様に地方創生の対象そのものであるとも言える。